

映画『ゲッベルスと私』特別先行試写会 & クリスティアン・クレーネス監督、フロリアン・ ヴァイゲンザマー監督 来日記念特別対談

終戦から69年の沈黙を破り、ゲッベルスの秘書が独白する。

若きポムゼルは、第二次世界大戦中、1942年から終戦までの3年間、ナチスの宣伝大臣ヨーゼフ・ゲッベルスの秘書として働き、近代における最も冷酷な戦争犯罪者のそばにいた人物である。本作は彼女が終戦から69年の沈黙を破って当時を語った貴重なドキュメントである。“ホロコーストについてはなにも知らなかった”と語るポムゼルの30 時間に及ぶ独白インタビューと、世界初公開となる戦時中のアーカイヴ映像は、20世紀最大の戦争と全体主義の下で抑圧された人々の人生を浮き彫りにする。表情を強張らせ、“いわれたことをタイプしていただけ”と語るポムゼルの姿は、ハンナ・アーレントが主張した“悪の凡庸さ”をふたたび想起させる。



日時: 2018年5月22日(火)
18:00~21:00 (開場: 17:30~)

会場: 東京大学駒場キャンパス I
18号館ホール

対談者: 石田勇治(東京大学教授)

使用言語: ドイツ語(日本語字幕・通訳有り)

主催: ドイツ・ヨーロッパ研究センター(DESK)

後援: オーストリア大使館・岩波ホール・
サニーフィルム

© 2016 BLACKBOX FILM & MEDIENPRODUKTION GMBH



クリスティアン・クレーネス

1985年、オーストリアのテレビ局に入社。1990年、ウィーンに映像プロダクションを設立し、フリーランス・プロデューサーとして活躍。英国のアカデミー賞受賞俳優で、小説家、脚本家、劇作家、映画監督のピーター・ユスティノフと長年テレビや舞台製作を共にする。その後、難民の子供たちを支援するピーター・ユスティノフ・ファンデーションのアドバイザー兼マネージャーとして2004年まで務める。2006年、ブラックボックス・フィルム & メディアプロダクションを設立し、会社経営、プロデューサー、ディレクター業を兼務している。



フロリアン・ヴァイゲンザマー

ウィーン大学で政治学とコミュニケーション学を専攻した後、オーストリアの政治誌「Profil」でジャーナリストとして働く。1995年、ウィーンを拠点にする通信社に転職し、ヨーロッパ全土に向けて多くのニュース記事やルポタージュを書く。その後、クリスティアン・クレーネスと、東欧とアジアをテーマにした数多くの政治・社会テレビ番組を制作する。映像やマルチメディアなど多岐に渡るアーティストとコラボレーションし、美術館での展示映像の製作なども行なっている。

E-mail: desk@desk.c.u-tokyo.ac.jp

<http://www.desk.c.u-tokyo.ac.jp/>

TEL: 03-5454-6112

DESK
Zentrum für Deutschland- und Europastudien, Universität Tokyo, Komaba
東京大学ドイツ・ヨーロッパ研究センター
Center for German and European Studies